

# 2018年12月期 期末決算 Q&A資料



CNC立形複合研削盤  
CVG-6

株式会社 太陽工機

## 【質問】

Q:2018年度通期の業績について? ..... P3

Q:2019年度の受注金額の見通しは? ..... P4

Q:2019年度の業績予想について? ..... P4

Q:生産能力について? ..... P5

Q:配当政策について? ..... P5

## Q:2018年度通期業績について？

A: 受注金額は、前期比18.6%増の127億円(台数320台)となりました。半導体関連を始めとする産業機械関連向け59億円(前期56億円)や自動車関連向け27億円(前期27億円)が好調を維持し、工作機械関連企業向けが前期より131%増加して29億円(前期12億円)となったことが寄与しました。

売上面では、生産能力の向上に取り組んだ結果、当初売上計画80億円(228台)に対して、21.5%増(前期比32.0%増)の97億円(252台)となりました。利益面では、当初営業利益予想10.5億円に対して、59.0%増(前期比72.7%増)の16.6億円となり、営業利益率も当初予想13.1%に対して17.2%と、大幅に上昇しました。増収に伴う増益と、作業効率の改善や複数台ロット生産による生産効率アップにより製造コストが低減し、売上原価率が69.2%(前期売上原価率70.5%)に改善したことが寄与しました。

2018年度の業績は、受注、売上、利益(営業利益・経常利益・当期純利益)とすべてにおいて過去最高を達成しました。2019年度は更に上を目指してまいります。

## Q:2019年度の受注金額の見通しは？

A: 2018年度の下期の月平均の受注金額は、リードタイムが約1年と延びていることと、米中摩擦の影響による先行き不透明感から注文を見合わせるケースが出たことにより9億円強(上期は12億円強)となりました。

2019年度の受注は、ロボット関連、半導体関連での需要に一服感が見えるものの、引き続き他の産業機械関連や自動車関連、工作機械関連企業向けを中心に活発な設備投資需要を見込まれることから、堅調に推移すると考えています。特に、2018年度に前期比で38.7%増となった海外受注金額の増加継続を見込んでおります。リードタイムの短縮を目指して生産能力の向上を図り、受注残高を確実にこなしてまいります。

## Q:2019年度の業績予想について？

A: 2019年度は、売上は10,800百万円(台数約290台)、営業利益1,920百万円(営業利益率17.8%)、当期純利益1,310百万円(当期純利益率12.1%)を計画しています。現状の生産能力からは、月平均9億円の売上は達成可能な水準です。業績予想は通期のみとしていますが、四半期ごとに平準化された生産により、更なる売上増を目指してまいります。

## Q:生産能力について？

A: 現状の生産能力は、月平均売上金額で約9億円(台数約25台)を見込んでおります。2017年度下期より生産能力の増強へ向けて、人材の確保、人材育成・スキルアップ、地元協力会社の活用による標準工程の組立外注化など、作業効率の改善に取り組んでおります。2019年度も引続き生産能力の向上を図り、更なる売上増を目指してまいります。

## Q:配当政策について？

A: 今期(2019年度)については、1株当りの配当金は50円とし、中間期(6月30日)と期末(12月31日)を期日として、2回に分けて配当金をお支払いする予定です。今期の利益予想に対する配当性向は22.6%となります。

今後の配当政策については、2020年に取得する土地及び新工場建設等の設備投資資金を考慮しながら、検討してまいります。

(※なお、前期(2018年度)の期末配当金1株あたり40円(2分割前)については、平成31年3月開催予定の定時株主総会に付議いたします。)

## お取り扱い上のご注意

本資料は、当社をご理解いただくために作成したのもので、当社へ対する投資の勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の情報は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであります。

お問合せ先 株式会社太陽工機 管理部

TEL :0258-42-8808

URL :<http://www.taiyokoki.com>